


このたびは、モデリスタ商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
本書は、リヤスカートの取付要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読み頂き、正しい取り付けを行なって下さい。
本商品はGRAN BLAZEマフラーカッターと同時装着の商品となります。

取り付け上の注意事項

- 取り付け前に車両に傷がついていないか点検して下さい。
- エンジンがかかっている状態では絶対に作業を行なわないで下さい。
- 車両部品の取り外しに際して、紛失や混乱がない様に部品ごとに整理して、復元する際間違えない様配慮して下さい。また、部品に傷を付れたりしない様に取り扱いに注意して作業を行なって下さい。
- 本書で指示した部品以外は、取り外さない様注意して下さい。
- 商品を取り付ける部分の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで拭き取って下さい。
- 車両へ商品を取り付ける際は、左右1名ずつ2名で作業を行なって下さい。
- エンドモール(両面テープ付き)・両面テープを貼り付ける部分は、必ず脱脂して下さい。脱脂作業を怠ると両面テープを接着しても剥がれる場合があります。
- 両面テープの接着力促進剤として、必ず両面テープ用プライマーを塗って下さい。
(PACプライマーN-200、PACプライマーK-500を本品に添付)
- 重要** プライマーの効力を発揮させる為、塗布後、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。
- 重要** ■両面テープは、外気温が15℃以下になると接着力が低下しますので、両面テープ及び被接着面をドライヤー等で温めてから貼り付け作業を行なって下さい。
- 両面テープのプライマーは、溶剤が揮発するため速やかに作業を終了して下さい。
- 両面テープのプライマーは、塗装面を黄変させますので必ず塗装面をマスキングし、はみだしたプライマーは、直ちにホワイトガソリンやIPA等で完全に拭き取って下さい。
- ボディーコートが塗布されている車両は塗装用コンパウンドでボディーコートを剥離して下さい。(必ずマスキングし、なるべく細かい番手で行なう。)ボディーコートが塗布されている車両は脱脂作業を行なっても、プライマーの接着力促進効果を十分に発揮できない場合があります。ボディーコート除去後は、ホワイトガソリンやIPA等で脱脂をきちんと行なって下さい。
- 重要** ■両面テープの圧着を充分に行なって下さい。49N(5kgf)
- 重要** ■フェンダーアーチ部等のビス本締めは両面テープ貼り付け後3時間以上放置後行なって下さい。

取り付け完了後の点検・注意事項

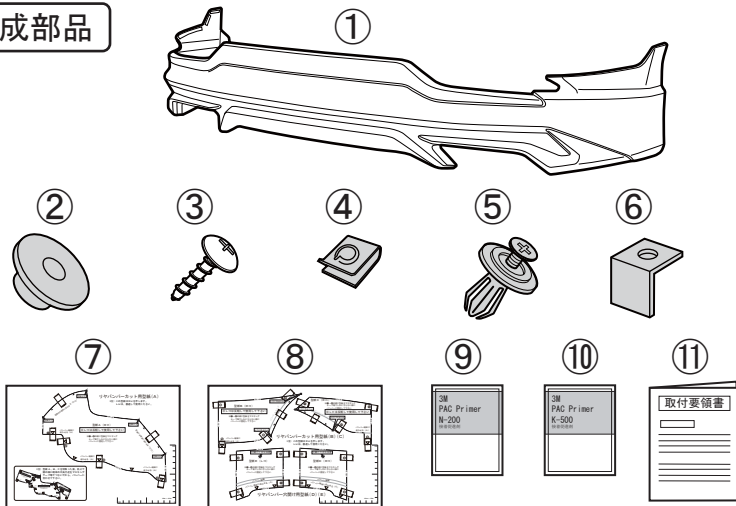
- リヤスカートが、車両バンパーに確実に共締めされているか点検して下さい。
- 両面テープの全ての離型紙が剥がされ、**確実に**圧着されているか点検して下さい。
- 取り付け完了後、リヤスカート及び車両部品に傷がついていないか点検して下さい。
- 取り付け完了後、**最低3時間**は強い力をかけたり、雨等で濡れない様注意して下さい。
(両面テープの剥がれ、車両バンパーとリヤスカートとの間に隙間が発生するおそれがあります。)

 アドバイス…この取付要領書では、スピーディーに安全な作業をして頂く上で知っておいて頂きたい事を左図マークで表示しております。

リア- (GRAN BLAZE) モデルスタ バージョン

リヤスカート (品番 : D2641-63110-XX)
(品番 : MSD43-48003/4)

構成部品

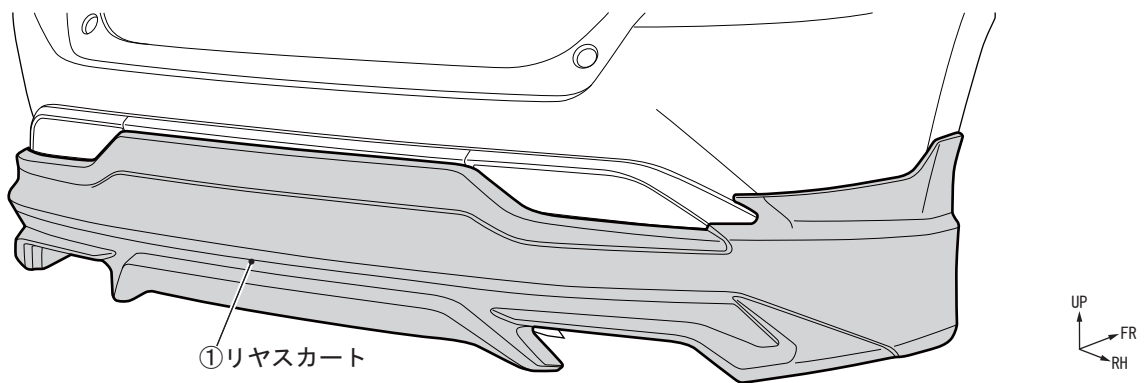


No.	品名	個数
①	リヤスカート	1
②	タイヤハウスボス	6
③	タッピングスクリュー (M4×16)	6
④	Uナット (M4)	6
⑤	スクリベット	2
⑥	シム	3
⑦	型紙 A	1
⑧	型紙 B, C, D, E	1
⑨	PACプライマー (N-200)	1
⑩	PACプライマー (K-500)	1
⑪	取付要領書	1

注意

取り付け作業を行なう前に、必ずマフラー部が冷めている事を確認して下さい。
マフラー部に熱を持っている場合、ヤケドをすることがありますので十分御注意下さい。

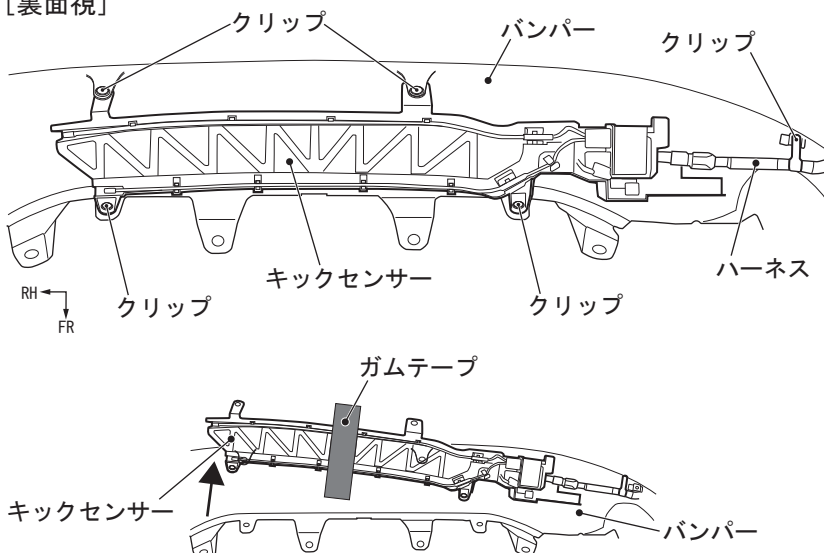
取付概要



取付手順

(1) バンパーの加工

[裏面視]

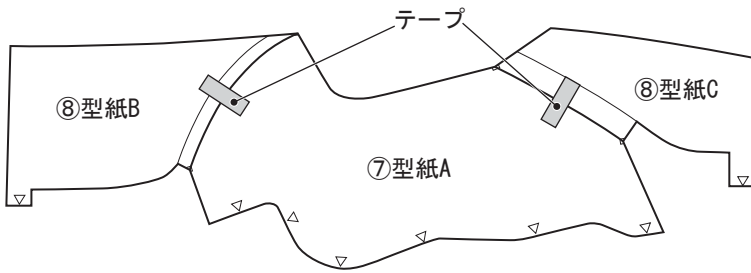


1. リヤバンパーを車両から取り外す。
作業性と車両部品保護のため、キックセンサーとハーネスのクリップを取り外し位置をずらして、ガムテープ等でバンパーに固定する。

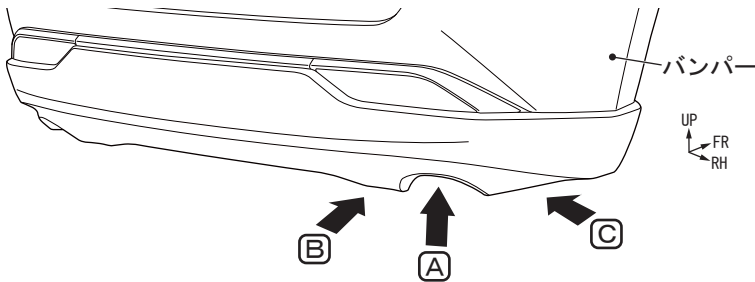
アドバイス

- 取り外しの詳細は、トヨタ自動車発行の修理書を参照して下さい。
- 取り外した車両クリップ、スクリューは再使用しますので紛失しない様。ご注意下さい。

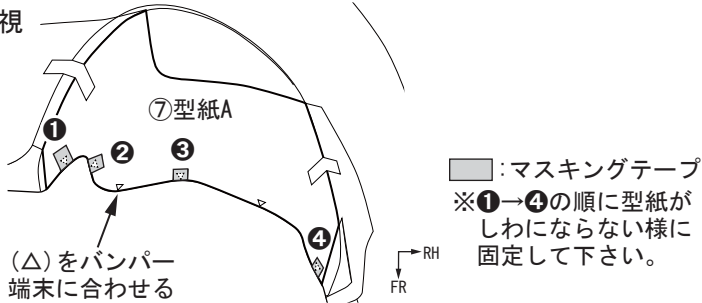
RH図示 ※LHも同様に



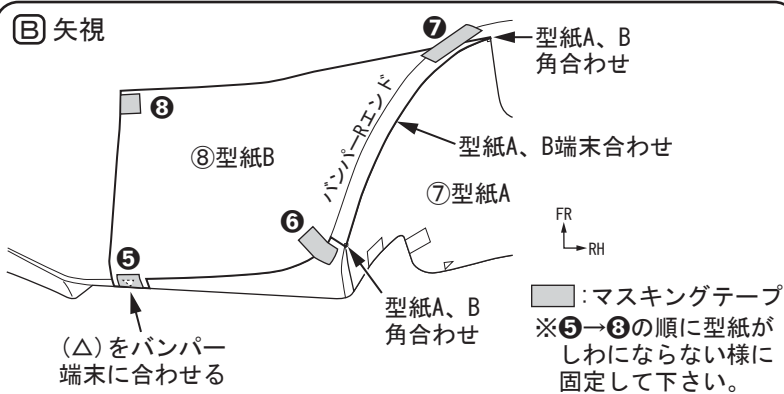
RH図示 ※LHも同様に



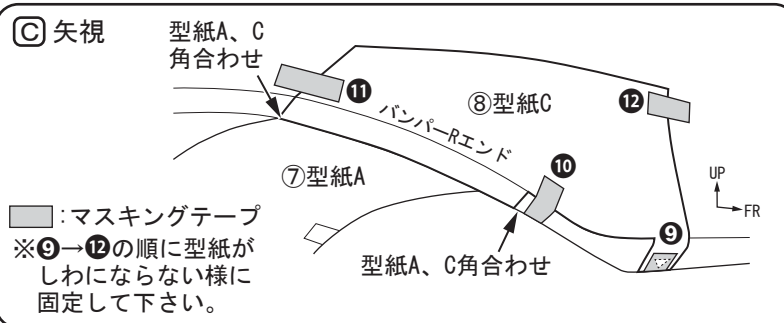
(A) 矢視



(B) 矢視



(C) 矢視



2. ⑦型紙A、⑧型紙B、Cを切り抜き、テープ等で繋ぎ一体化にする。
※作業台等、机上で行ってください。

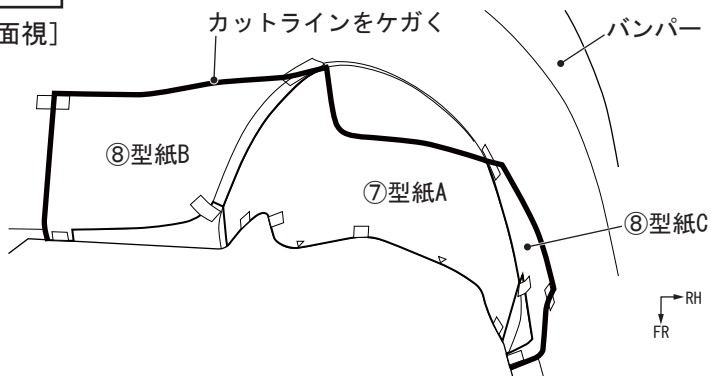
3. マフラー部に⑦型紙Aをバンパー末端に合わせてマスキングテープで①～④の順に貼り付ける。
(A)矢視図参照

4. ⑧型紙Bを⑦型紙Aの末端およびバンパー末端に合わせてマスキングテープで⑤～⑧の順に貼り付ける。
(B)矢視図参照

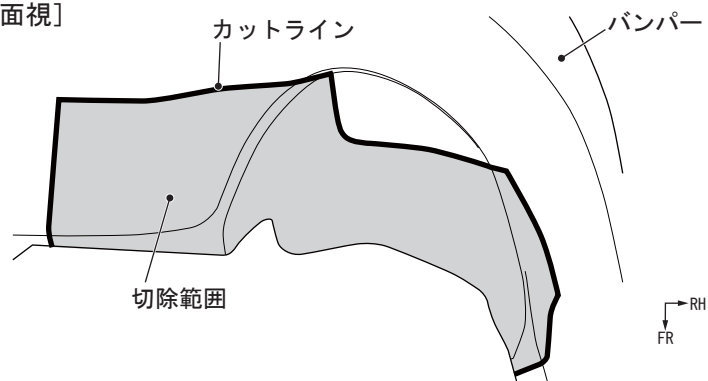
5. ⑧型紙Cを⑦型紙Aの末端およびバンパー末端に合わせてマスキングテープで⑨～⑫の順に貼り付ける。
(C)矢視図参照

RH図示 ※LHも同様に

[下面視]



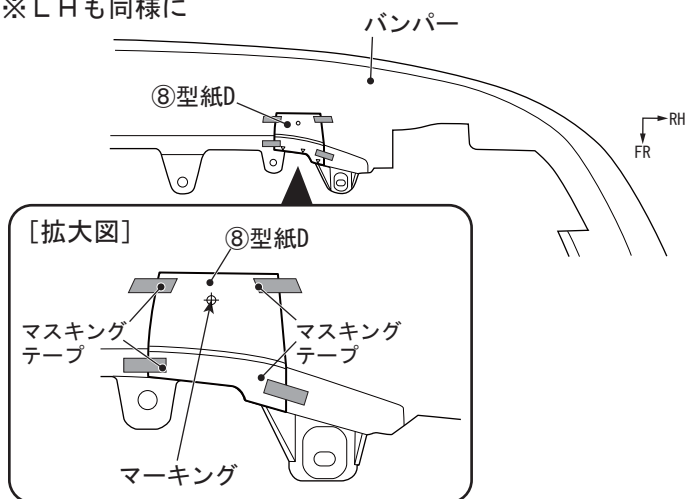
[下面視]



⚠ 注意

※バンパーをカットする際にバンパー裏側の車両ハーネス等の部品を傷付け無い様、注意して下さい。

RH図示 ※LHも同様に



6. ⑦型紙A、⑧型紙B、Cの外周に沿ってカットラインをケガク。
(左図参照)

7. ⑦型紙A、⑧型紙B、Cを外し、カットラインに沿ってバンパーをカットする。
加工後、バリの除去を行う。
(左図参照)

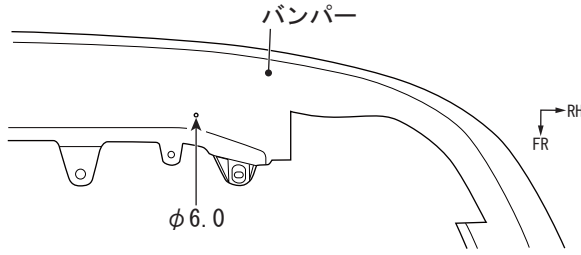
※外した⑦型紙A、⑧型紙B、Cは反転して左側のカットに使用します。

8. ⑧型紙Dを切り抜く。

9. 図の位置に⑧型紙Dをマスキングテープで貼り付け、穴開け位置をマーキングする。
マーキング後、⑧型紙Dを外す。
(左図参照)

※左側のマーキングは⑧型紙Eを使用して同様にこなして下さい。

RH図示 ※LHも同様に



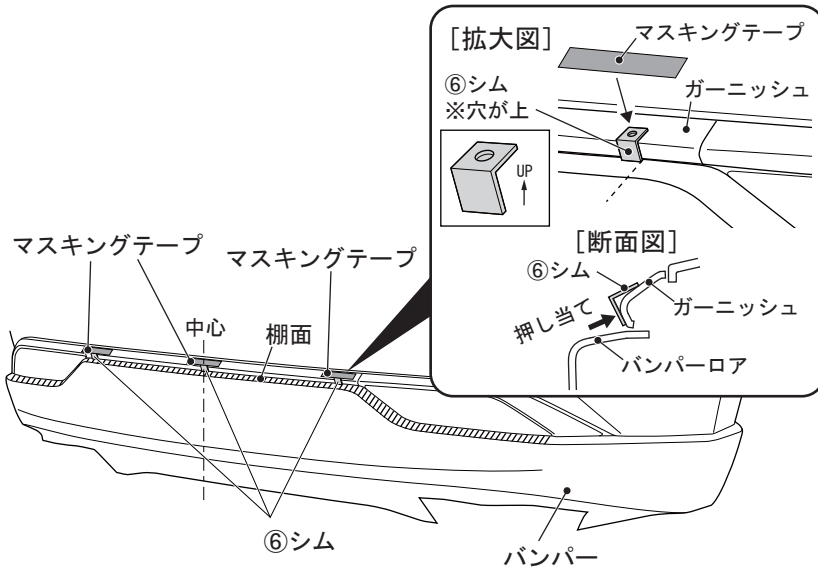
注意

※バンパー穴開けの際、バンパー裏側の車両ハーネス等の部品を傷付け無い様、注意して下さい。

10. マーク位置に⑤スクリベット固定用の下穴をφ3.0、本穴をφ6.0で開ける。穴開け後、バリを除去を行う。
(左右各1カ所、左図参照)

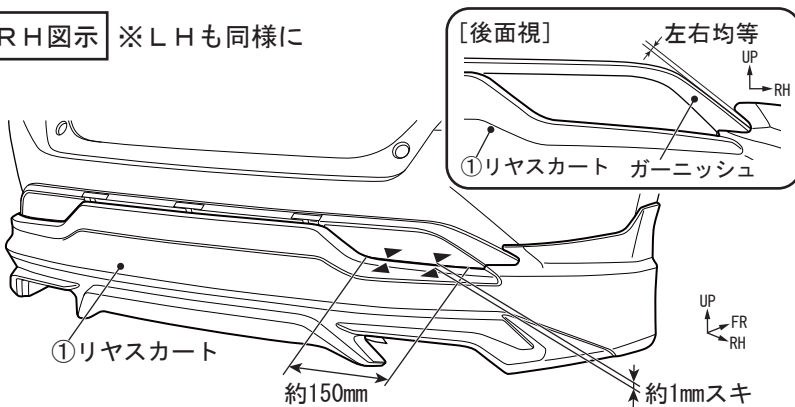
11. (1)-1で取り外したキックセンサーとハーネスを元に戻し、バンパーを車両に復元する。

(2) 仮組とプライマー塗布



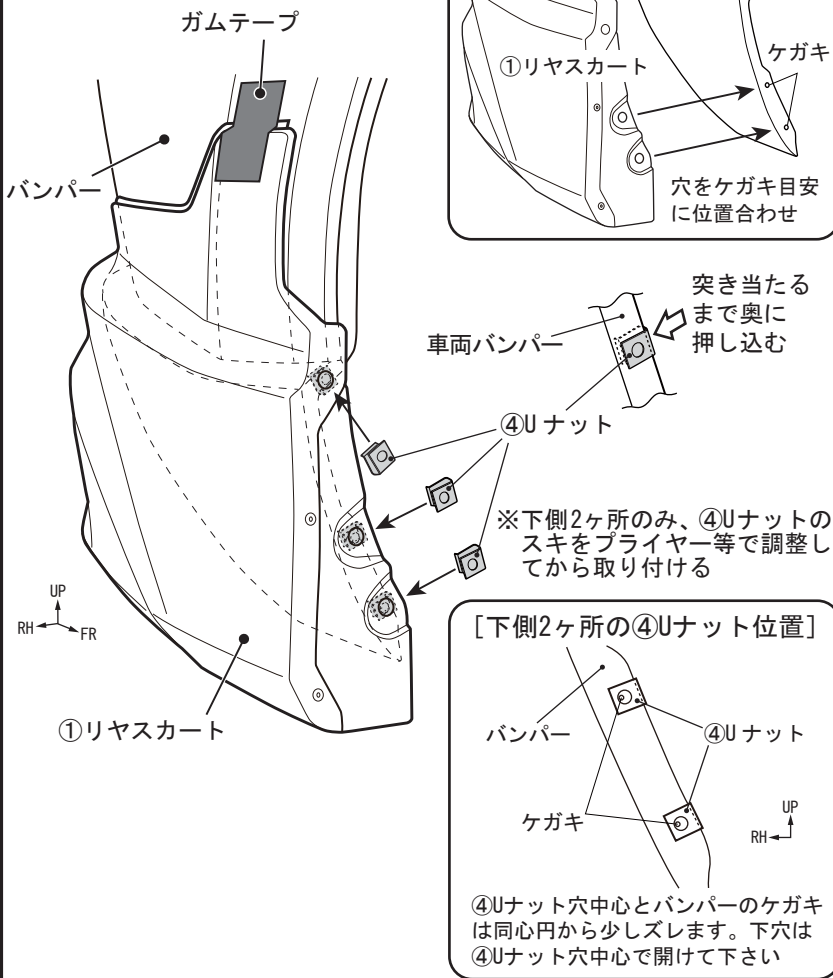
1. 車両ガーニッシュに⑥シムをマス킹テープで貼り付ける。(3カ所) 車両バンパーロア棚面(図中斜線部)に①リヤスカート載せる様に被せ、⑥シムに押し当てる。
(左図参照)

RH図示 ※LHも同様に



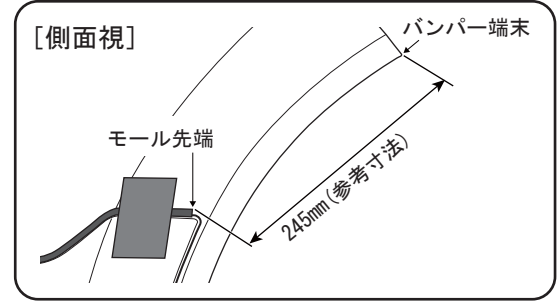
2. 車両ガーニッシュと①リヤスカートの間隔を左右均等(後面視図参照)にし、(▶-◀)間(約150mm)のスキを約1mmに合わせる。
(左図参照)

RH図示 ※LHも同様に



3. タイヤハウス部の下側2カ所の穴をバンパー折り返し部ケガキを目安に位置を合わせ、ガムテープ等で仮固定する。(左図参照)

※フェンダーアーチ部エンドモール先端位置が指示寸法になることを確認して下さい。(下図側面視参照)



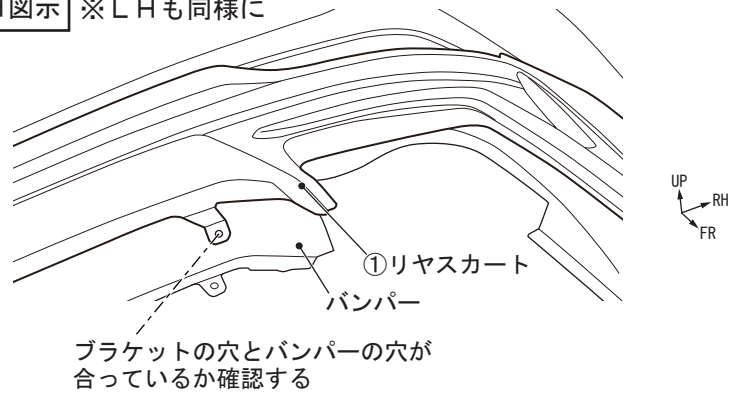
4. ④Uナットを差し込むバンパーの板厚が下側2ヶ所は薄い為、④Uナットにスキが出来ます。プライヤー等で④Uナットを調整して下さい。

5. ①リヤスカートの取り付け穴に合わせて、④Uナットをバンパーに差し込み、④Uナットの穴中心で下穴を開ける。※下側2ヶ所の④Uナット穴中心と、バンパーのケガキは、同心円から少しズレますが、④Uナット穴中心で下穴を開けて下さい。

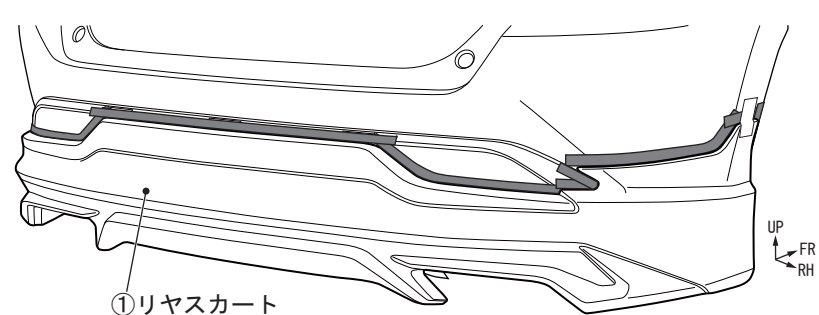
アドバイス

下穴を開ける際は、穴の中心を狙い、ケガキ針ないしは、画鋸を用いて行なって下さい。

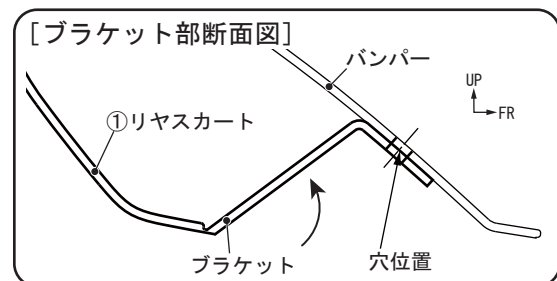
RH図示 ※LHも同様に



RH図示 ※LHも同様に



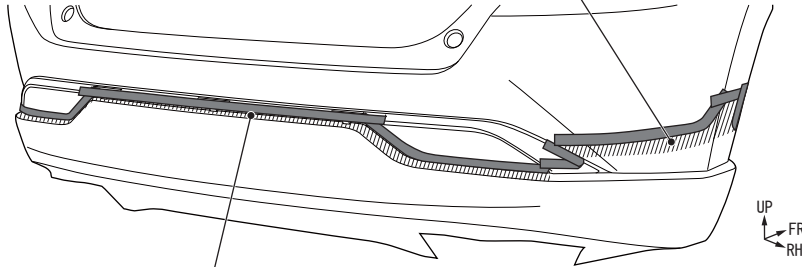
6. ①リヤスカート下面のブラケットの穴が、(1)-10で開けた穴に合う様にバンパー側へ折り曲げて、取付位置を確認する。(左右各1カ所、左図参照)



7. プライマー塗布の為に、マスキングテープを貼り付ける。(左図参照)

RH図示 ※LHも同様に

脱脂及び⑨PACプライマー-N-200 (赤袋) 塗布範囲
(斜線部 約30mm均等幅)



脱脂及び⑩PACプライマー-K-500 (青袋) 塗布範囲
(斜線部 約30mm均等幅)

※PHEV車は⑨PACプライマー-N-200 (赤袋) 塗布

⚠ 注意

脱脂及びプライマーの塗布は重要な作業です。
不十分な場合、浮き剥がれの要因となるおそれがあります。

8. ①リヤスカートを一旦取り外し、両面テープ貼り付け部 (左図斜線部) を、一方方向に拭いて脱脂し、ボディ色部分に⑨PACプライマー-N-200、素地部分に⑩PACプライマー-K-500を塗布する。
※PHEV車は⑨PACプライマー-N-200を塗布して下さい。(左図参照)

👉 アドバイス

- PACプライマーは特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、ホワイトガソリンやIPA等で拭き取って下さい。
- PACプライマー塗布後は、常温で10分以上放置し乾燥させて下さい。
- ボディーコート処理されている車両は、マスキングをして両面テープ貼り付け部分を塗装用コンパウンドで除去して下さい。
- PACプライマーは、必ず塗布部位によって使い分けてください。

- 塗装部分 : N-200 (赤袋)
- 素地部分 : K-500 (青袋)

9. プライマー塗布後、マスキングテープを剥がす。⑥シムは剥がさずに残す。

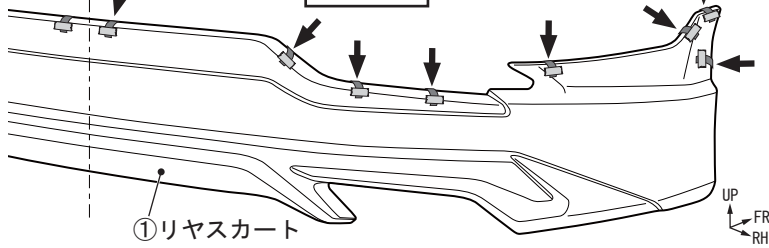
1. ①リヤスカートの両面テープ離型紙を中央から外方向へ一部剥がし、表面に折り返してマスキングテープで貼り付ける。(左右各8カ所、左図参照)

2. ①リヤスカートを仮組と同様の手順で取り付け、車両ガーニッシュとの間隔を左右均等 (後面視図参照) にして、(▶◀)間 (約150mm) のスキを約1mmに合わせる。(左図参照)

3. ②タイヤハウスボスを①リヤスカート取り付け穴に挿入し、③タッピングスクリューで④Uナットに仮締めする。(左右各3カ所、左図参照)

(3) 取付

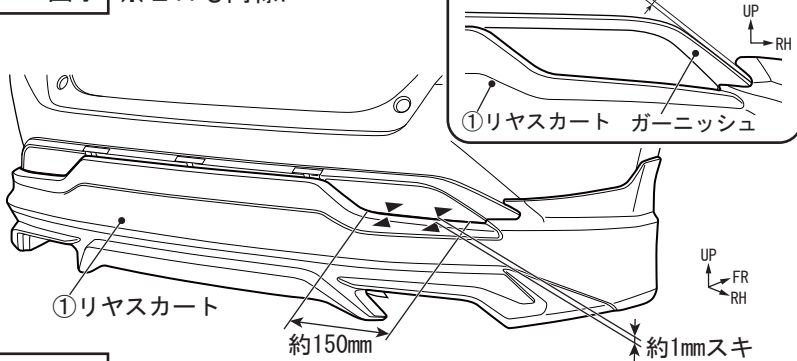
RH図示 ※LHも同様に



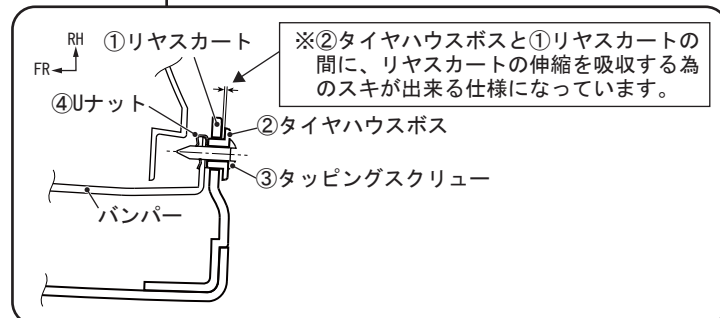
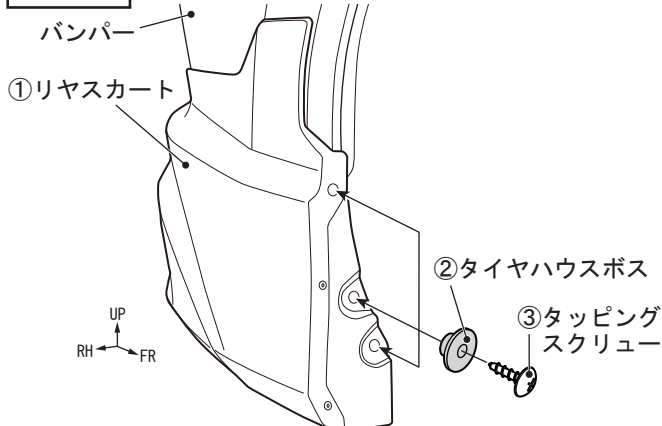
RH図示 ※LHも同様に

[後面視]

左右均等

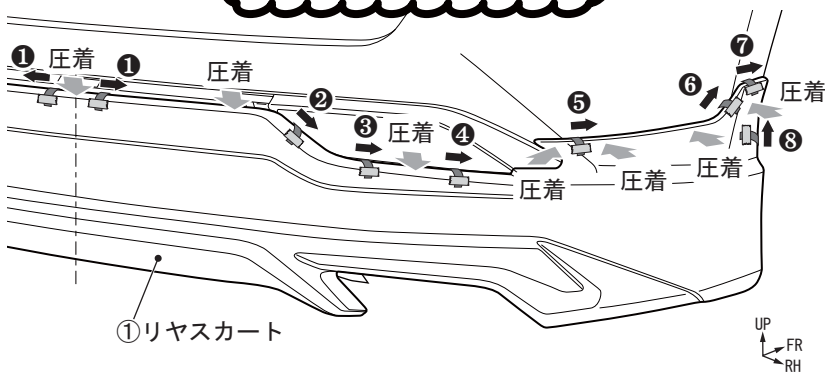


RH図示 ※LHも同様に



RH図示 ※LHも同様に

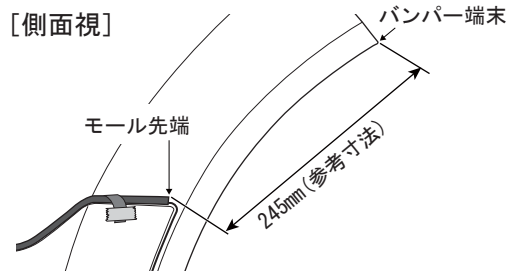
※離型紙を引き抜く順序



4. 車両ガーニッシュとの左右均等の間隔スキが変わらない様に離型紙を①から順に矢印の方向に引き抜き、圧着する。(左図参照)

※フェンダーアーチ部エンドモール先端位置が指示寸法になることを確認して下さい。(下図側面視参照)

[側面視]



アドバイス

- ・両面テープの貼り直しをすると、接着力が極端に低下します。設定位置に確実に取り付けてください。
- ・離型紙が途中で切れない様に、①リヤスカートを少し浮かしながら離型紙を引き抜いて下さい。
- ・両面テープの圧着は、49N(5kgf)程度で行なって下さい。

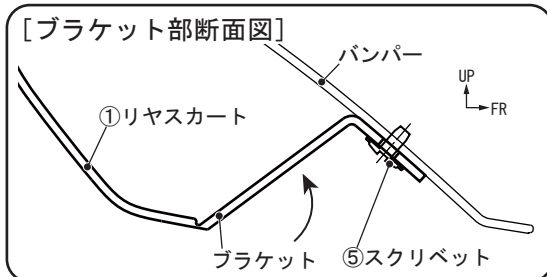
5. ⑥シムを取り外す。

6. ①リヤスカート下面のブラケットを⑤スクリベットで固定する。(左右各1カ所、左図参照)

RH図示 ※LHも同様に



[ブラケット部断面図]

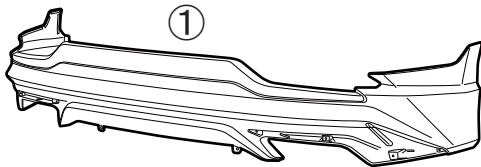


7. 両面テープ貼り付け位置を再圧着する。

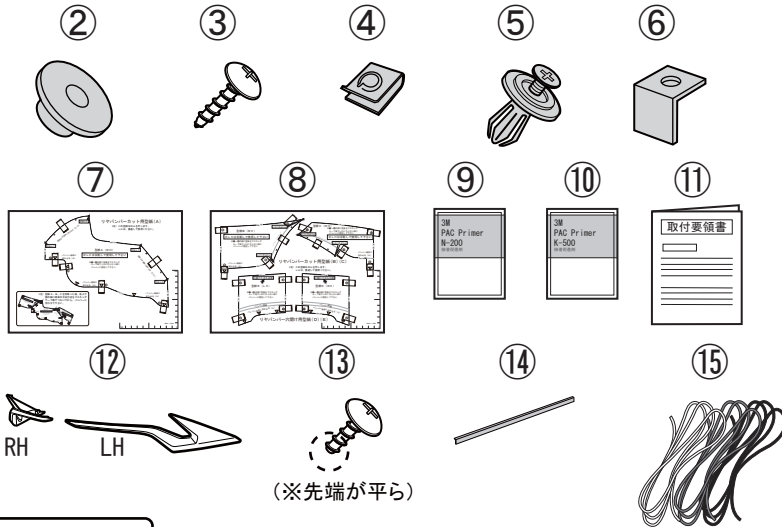
8. 両面テープ貼り付け後、3時間以上後全てのタッピングスクリューを本締めする。

リヤスカート素地品の塗装手順

構成部品



※：⑫メッキパーツ (RH/LH)、⑬Bタッピングスクリューは、①リヤスカートに仮固定されています。塗装前に外してください。
塗装後の取り付けに必要ですので、紛失されない様注意してください。



※
※

No.	品名	個数
①	リヤスカート	1
②	タイヤハウスボス	6
③	タッピングスクリュー (M4×16)	6
④	Uナット (M4)	6
⑤	スクリベット	2
⑥	シム	3
⑦	型紙 A	1
⑧	型紙 B, C, D, E	1
⑨	PACプライマー (N-200)	1
⑩	PACプライマー (K-500)	1
⑪	取付要領書	1
※ ⑫	メッキパーツ (RH/LH)	左右各 1
※ ⑬	Bタッピングスクリュー (M4×12)	10
⑭	Lモール	1
⑮	エンドモール	Lグレー:1 グレー:1 ブラック:1

塗装作業

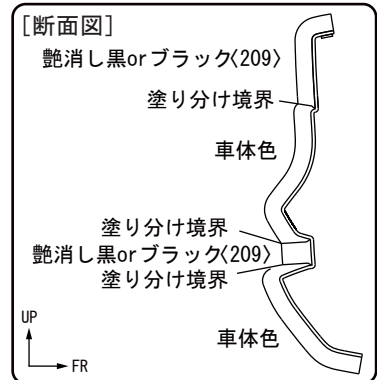
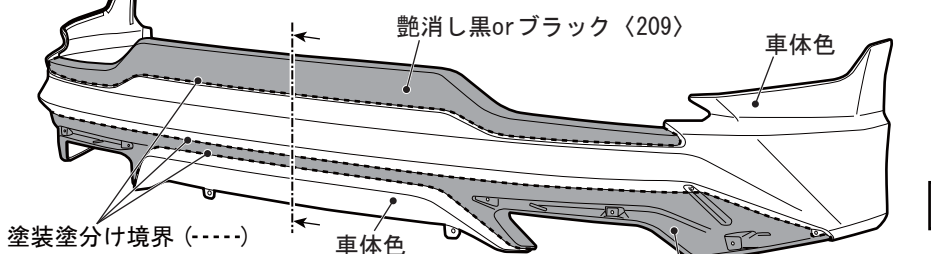
1. 塗装面の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで取り除き、必ず脱脂を行なう。
2. 製品に貼り付けてある両面テープ、フェンダーアーチ部の別パーツをマスキングする。
3. プライマー塗装を行なう。

※本製品の素材は>PP<です。

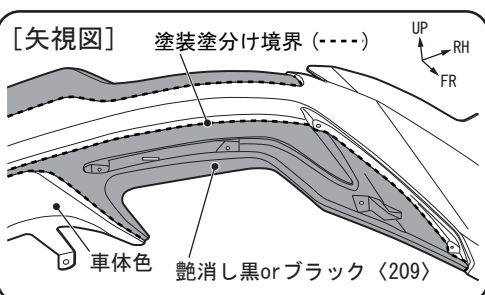
4. 上塗り塗装を行なう。
◎注記：上塗り用の塗料はウレタン系をご使用下さい。
5. 乾燥。
◎注記：乾燥温度は、成形樹脂の物性上、必ず60℃以下で乾燥させて下さい。

※塗装塗り分け範囲

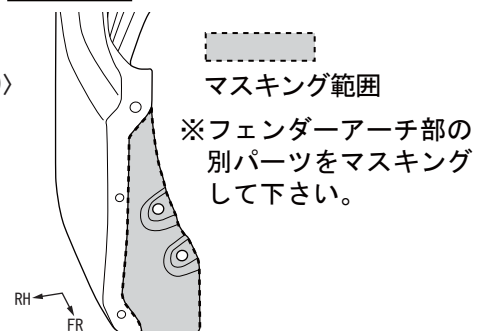
車体色黒系：艶消し黒で塗装
車体色黒系以外：ブラック<209>で塗装



RH図示 ※LHも同様に



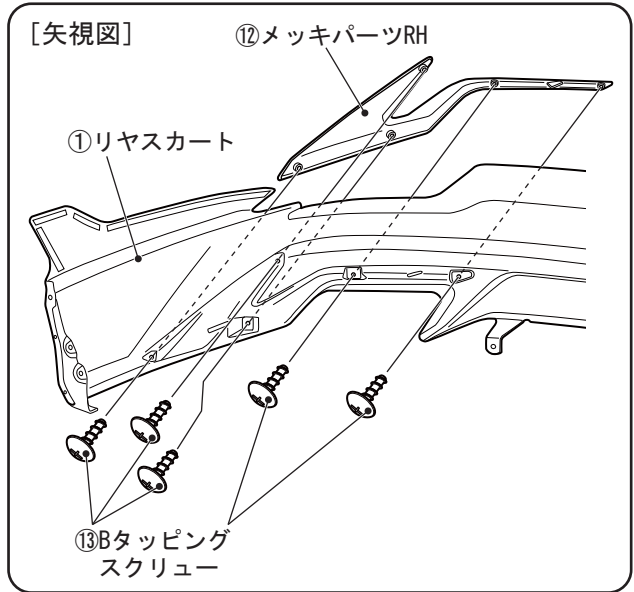
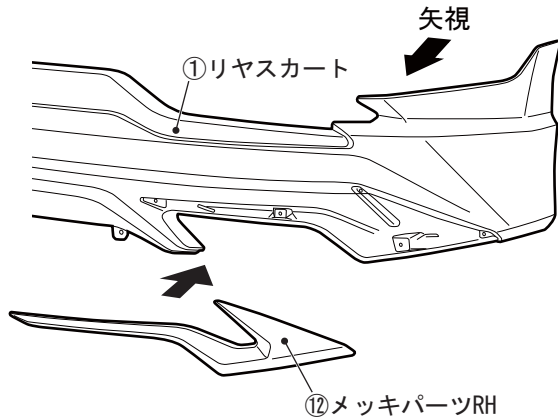
↑ 矢視
艶消し黒orブラック<209>



メッキパーツの取り付け作業

1. 塗装完了後、①リヤスカートに⑫メッキパーツRHを被せ⑬Bタッピングスクリューで固定する。(5カ所)

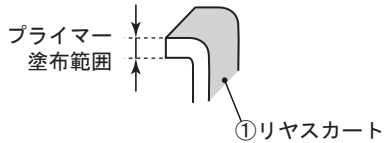
RH図示 ※LHも同様に



エンドモールの貼り付け作業

1. 塗装完了後、⑮エンドモールを貼り付ける部分を脱脂し、⑩PACプライマーK-500を塗布する。

PACプライマーK-500塗布範囲



アドバイス

- ・⑩PACプライマーK-500は①リヤスカート取り付け時に再使用します。揮発性が高いので、速やかに袋に戻し揮発を抑えて下さい。
- ・⑩PACプライマーK-500は特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、直ちにホワイトガソリンやIPA等で拭き取って下さい。
- ・⑩PACプライマーK-500塗布後は、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。

2. 下図の要領で⑮エンドモールを貼り付ける。

アドバイス

- ・エンドモールを引っ張りながら貼ると、極端に剥がれやすくなります。絶対に引っ張りながら貼らないで下さい。
- ・エンドモールは必ず奥まで差し込んで下さい。
- ・貼り付け後、十分に圧着して下さい。

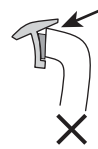
奥まで押し込む



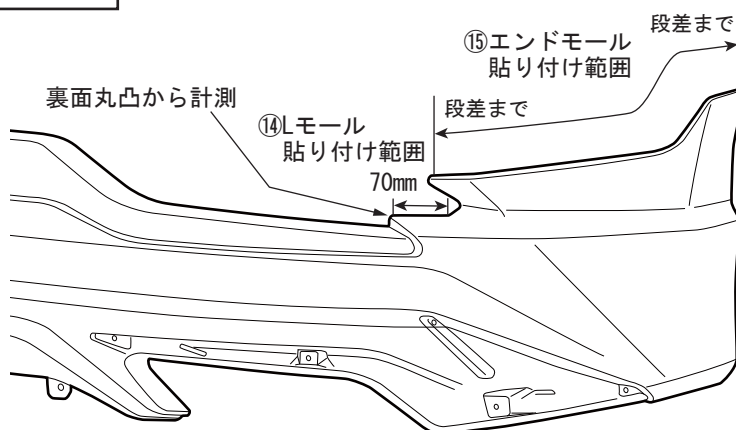
隙間が空いている



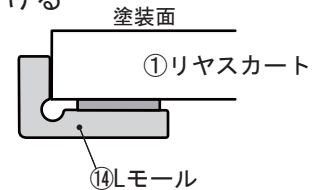
傾いている



RH図示 ※LHも同様に



⑭Lモールドを左図の範囲(70mm)に貼り付ける

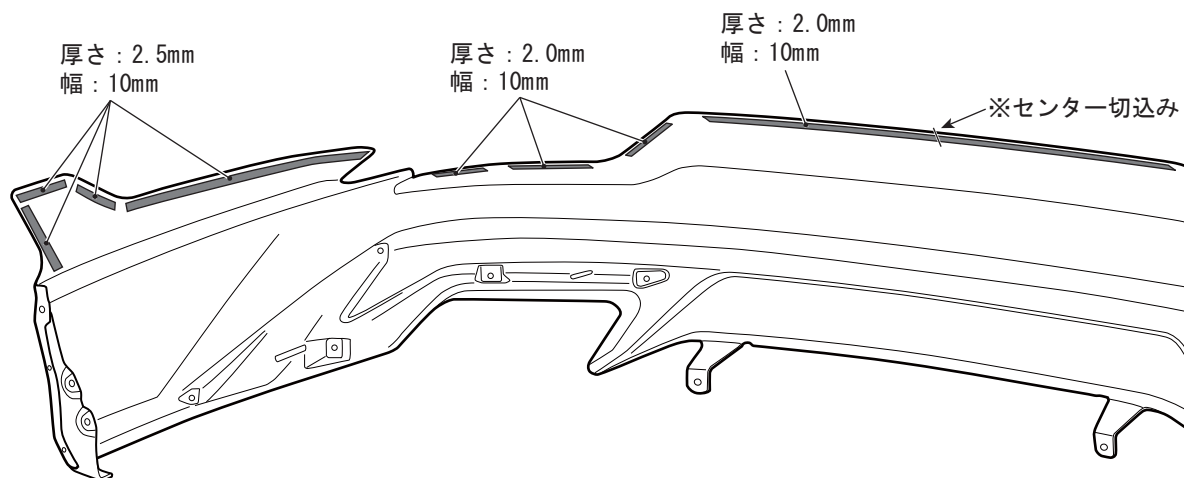


※貼り付け部分を脱脂し⑩PACプライマーK-500を塗布する。

補修キット両面テープ貼り付け

1. 補修キットを使用して①リヤスカートの再取付を行なう際は、下図を参考に両面テープを選択し貼り付けて下さい。（元の位置と同様に貼り付けて下さい。）

RH図示 ※LHも同様に



脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

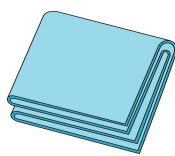


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
 - ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
 - ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

■ 取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



合成セーム皮



脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス




WET 用
ウエス




イソプロピルアルコール(IPA)
※純度 100%推奨

■ 脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。

 アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。

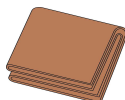


水拭き用バケツ



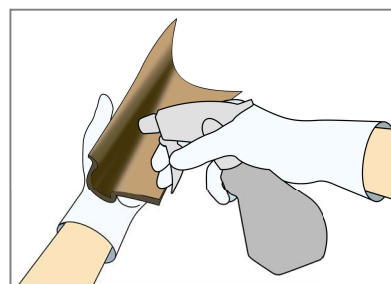
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

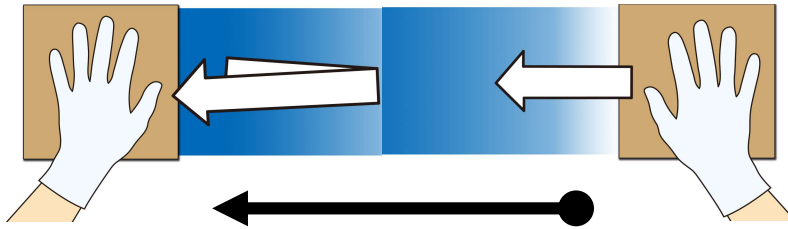
● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

脱脂剤を含ませたウエスで
1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に
拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち
WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

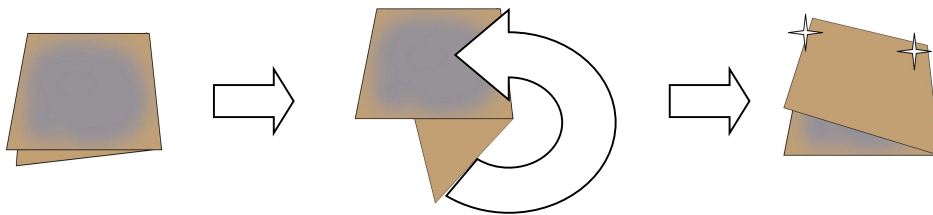
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを
行ってください。

(上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。)

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が
残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3~5 ブロック 毎にウエス表面を折り返し
ウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。



汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に
再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際に
ウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。
作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。
パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書に
したがって行ってください。